

火事は何件くらいあるの？



何もかも灰にしてしまう恐ろしい火災、この火災についての現況をお知らせします。

全国で、昭和61年から平成7年までの過去10年間に発生した火災件数は58万6千316件（年平均5万8千631件）になっていきます。また、これらの火災による死者は、平成7年の場合2千356人で、1日平均6人の尊い生命が失われたこととなります。

一方、本市における、昭和62年から平成8年までの過去10年間に発生した火災件数は、57件（年平均57件）であり、死者は平成8年の場合2人になっています。

なお、火災の種類については、

- ④ 天ぶらを掲げるときは、その場を離れない。
- ⑤ 家の周りに燃えやすいものを置かない。
- ⑥ 風呂の空焚きをしない。
- ⑦ ストープには、燃えやすいものを近づけない。

こちら
119番

- 消防テレガイド
☎69-6141
- 在宅医テレガイド
☎67-2828
- こちら119番
消防本部通信指令室
☎68-5119

3月1日～7日は 春の火災予防運動

建物火災が全体の6割程度を占め、林野火災や車両火災がそれに次いで発生しています。

寒気がゆるむと同時に、火に対する注意がゆるみ始めるのもこの時期です。3月は空気が乾燥し、春一番などの強い風も吹き、火災の発生しやすい条件がそろっています。いま一度、家族全員で「火の用心」について話し合ってください。

消防の調査員が、焼け跡において関係者からお話を聞くたびに思うことは、どの家庭においても様々な出火の危険性があるということなのです。

そこで、守っていただきたい7つの要点を紹介いたします。

- ① 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- ② 子どもに、マッチやライターで遊ばせない。
- ③ 風の強いときは、焚き火をしない。



『散歩の気分まで山歩き』
平野恵理子著
〈山と溪谷社〉

新刊書紹介

こだわりの山用具から山でのおいしい食事、記憶に残る小さな山から大きな山、薪ストーブの山小屋、森で見つけたかれんな植物、山麓の温泉など。散歩の気分ですぐから山のでっぺんまで楽しんでしまおうという著者の軽妙なエッセイで、新しい山の歩き方を提案した本。山から心を穏やかにする魔法をもらっているようだという著者のセオリーがいつぱいまった、又、カラフルなイラストがふんだんに散りばめられた魅力の一冊である。

図書館 だより

おすすめの1冊

『揺れて』

落合恵子著
〈集英社〉

この本は小説としてのストーリーよりも登場する女性たちの生き方、考え方に同じ世代を生きた同性として共感を覚えた。主人公「風砂子」が夫の死をきっかけに、自分が「何をしたいか」から自分探しの旅への一歩を踏み出す。そして、さまざまな女性たちとの出会いの中で揺れながら、次第に自分らしさに目ざめ自立していく。

女性が地域社会の中で沈黙を破り、ぎゅっと閉じた心のふたを開けて、心の奥底にたまった問題を表に出していかない限り、女性の意見は社会の真ん中にはでてこない。そういう意味では、作者の思いがそのまま登場する女性たちの言葉になって表現されている読みやすい。



鹿島北読書会
志賀笑子さん